

文科省の取り組み事業である「放課後子ども教室」は平成 19 年度から実施されており、少々データは古いが文科省のデータによれば、1,075 の市町村で実施されているとのことである。埼玉県は 40 市町村では、294 教室が開かれている。

政府も子育て支援に本腰を入れ始めたようであり、放課後子ども教室も更に増えよう。そこにシニアがより積極的に関われば世代間交流も出来素晴らしいのだが・・・閑話休題

本事業は、小学校の余裕教室等を活用して、子供達に放課後の居場所を提供し、地域の多様な方々の参画を得て見守りをして貰うことにより、子供達の安心・安全を確保し、かつ健やかな成長を期そうとするものである。

新座市でも平成 24 年度から先ず 2 つの小学校で開始し、平成 26 年度はそれが 6 校に拡大された。小生は当初はスタッフとして、次年度はコーディネーターとして、そして市の定年年齢に達した今年度はまたスタッフとして石神小学校で、週に 2, 3 日子供達に触れ合っている。

子供達と触れ合う中で、色々なことを感じもし、或いは新鮮な驚きにも遭遇したのであるが、その中の一つが「子供達は本当に鬼ごっこが好きだ」ということである。

鬼ごっこと言えば、昔ながらのオーソドックスな鬼ごっこしか知らなかったけれども、「先生！ ○○鬼、しようよ。」と言って来る。「何、それ、そんなのは知らないよ。教えてよ。」と聞くと、驚きである。色々な鬼ごっこがあるものだ。

最近どうしても気になったので、ネットで「鬼ごっこ」を調べてみた。ある民俗学者の調査では 500 種にも上るといふ。別なデータでは 1000 種とも。色々なバージョンがあるようだが、代表的なものには次のようなものがある。



- ①鬼ごっこ ②高鬼 ③色鬼 ④氷鬼 ⑤どろけい ⑥手つなぎ鬼 ⑦しっぽ鬼 ⑧蛇鬼 ⑨ブランコ鬼 ⑩十字鬼 ⑪丸鬼 ⑫線鬼 ⑬魔法鬼 ⑭くるくる鬼 ⑮見た鬼 ⑯影踏み ⑰ボール当て鬼 ⑱重なり鬼 ⑲猫とネズミ ⑳ハンカチ落とし ㉑たいたこ ㉒木鬼 ㉓東軍西軍 ㉔島鬼 ㉕角鬼 ㉖座り鬼 ㉗かたち鬼 ㉘あみなげた・さかなとり ㉙ケンケン鬼 ㉚コマ鬼 ㉛目隠し鬼

32 ころころ 33 増やし鬼 等々である。

研究者によれば、3つのパターンに分類できるとか、第一は、鬼に捕まえられない聖域を設けるもの、たとえば「高鬼」は地面よりも高いところならば、捕まえられることなく安全であるというパターンの鬼ごっこ。第二は特別な状態になると鬼から逃れることができるというもので、「氷鬼」のように捕まりそうになったら、氷状態になってしまうというもの。第三は、鬼に捕まえられた子も鬼になって一緒に子を捕まえるというタイプの鬼ごっこである。

小学校高学年になっても鬼ごっこが好きだ。瞬発力、持久力、そして判断力を養成することが出来るとして、結構推奨されているのだろう。

子供達と鬼ごっこする際の注意事項は、次の通りではないかと考える。まず、ルールをしっかりと約束すること。自分が不利になると新たなルールを持ち出す子が意外に多い。某国政府みたいなものである。従って、タイムにしる、聖域に居る時間にしる、回数にしるどれ位にするのかを明確にして遊ぶ必要がある。捕まえられた際に捕まえた鬼を直ぐに捕まえるのは禁止という「返し鬼はなし」というローカルルールもある。予めの取り決めが

重要である。

子供達が小生に期待しているのは、鬼になってくれということであるので、(それは良いのだが、) 均等・公平に子供を追いかけねば、子供が飽き、つまらなくなってしまう。

子供は必死に逃げるので、追いかける方も一生懸命に走るのだが、子供は周りが見えなくなるので、追いかける方にも気を使わねばならない。鬼が一生懸命に汗を垂らしながら追いかけてこそ子供も逃げるのに必死になる、それでこそ、良い触れ合いになる。

それにしても、小学校低学年と云えども、すばしこいもので捕まえるのに一苦労するし、逃げるのも楽ではない。終わった頃には小生のみが汗だくになっているという始末だ。

子供を追いかける時に本物の鬼や妖怪・怪獣らしく振舞えば更に大喜びだ。疲れるがこれも子供のためだ。

子供達は、ココフレンドの遊びや学習を通じて、成長してくれる筈であり、それを信じて明日も鬼になって追いかけ廻そう。

蛇足ながら、鬼ごっこは平安時代の五穀豊穰を祈願する宮中行事「鬼払いの儀式」に起源があるとも、中国の追儺「鬼やらい」(日本では「鬼追い祭り」)に源があるとも言われているようだ。日本鬼ごっこ協会なるものがあつたのには驚いたが・・・(了)